

積水化学グループの SDGs時代の企業戦略 ～環境課題への取り組みへの反映～

A stylized blue globe with white grid lines, showing the continents. A large, thick, multi-colored arrow (rainbow spectrum) curves around the globe from the bottom left towards the top right, pointing towards the right side of the frame.

積水化学工業株式会社
E S G 経営推進部

積水グループについて

環境課題に対する取組みの方向性

製品・事業を通じての課題解決

環境負荷の低減

環境の保全

自然資本会計



積水化学グループについて



社名 積水化学工業株式会社 (SEKISUI CHEMICAL CO., LTD.)

設立 1947年3月3日

資本金 1,000億円

代表者 代表取締役社長 加藤敬太

従業員数 27,003名 (2020年3月末日現在)

売上高 11,292億円 (2020年3月期連結ベース)

経常利益 869億円 (2020年3月期連結ベース)

本社 大阪本社
〒530-8565 大阪市北区西天満2丁目4番4号
06-6365-4122

東京本社
〒105-8566 東京都港区虎ノ門2丁目10番4号
03-6748-6460

URL <http://www.sekisui.co.jp/>

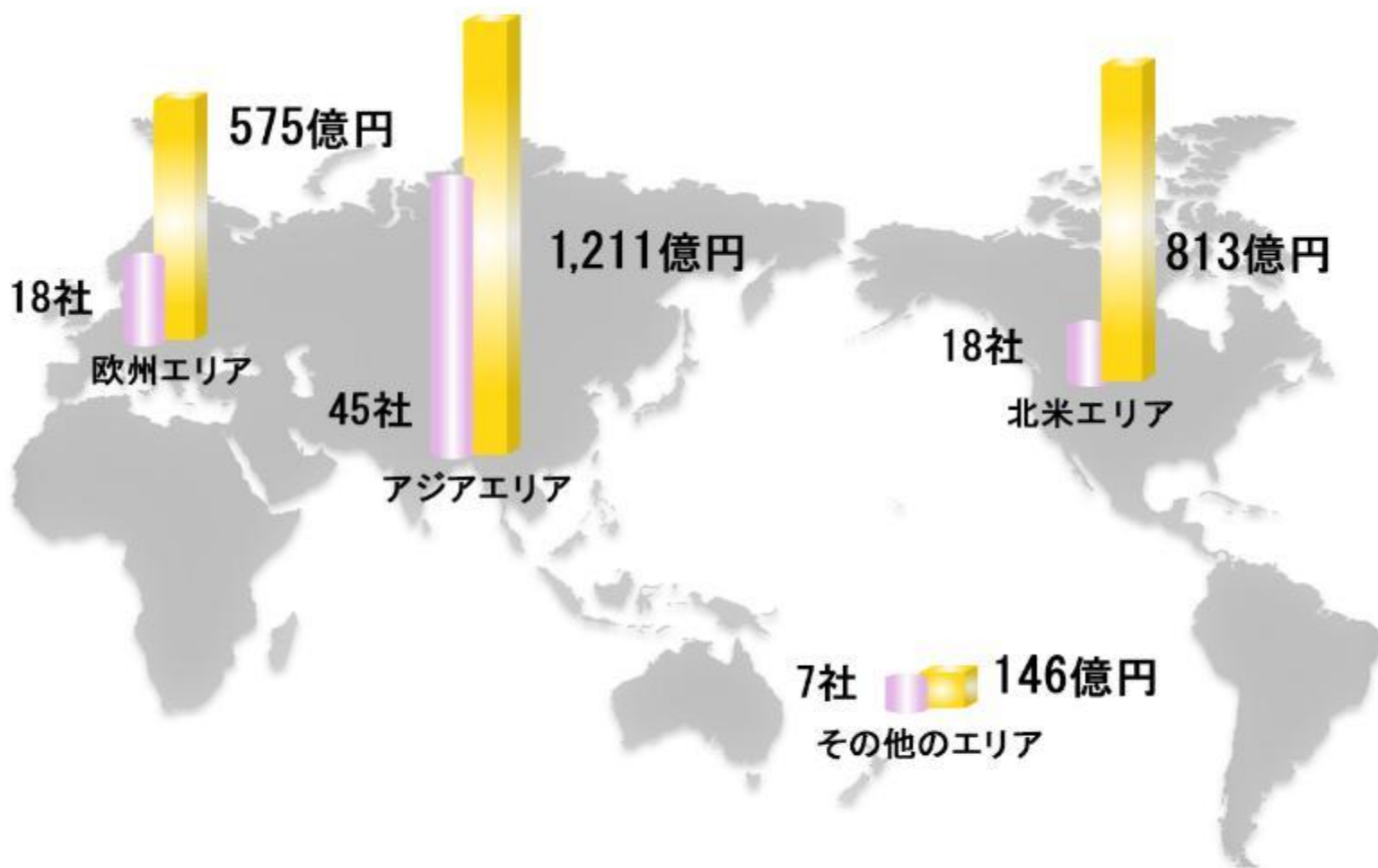




大阪本社



東京本社





 海外売上高
 関係会社数

● 海外会社合計：88社
 ● 売上金額：2,746億円（海外売上比率24.3%）

※2020年3月期 / 海外売上高：連結ベース | 海外会社数：連結+非連結ベース



■ 社 是 Corporate Philosophy

3S精神：[Service]

企業活動を通じて社会的価値を創造する

[Speed]

積水を千仞の谿に決するスピードをもって市場を変革する

[Superiority]

際立つ技術と品質で社会からの信頼を獲得する



■ グループビジョン Group Vision

積水化学グループは、際立つ技術と品質により、
「住・社会のインフラ創造」と「ケミカルソリューション」の
フロンティアを開拓し続け、
世界のひとびとの暮らしと地球環境の向上に貢献します。

■ 経営戦略 Management Strategies

事業別戦略
機能別戦略
ESG経営等

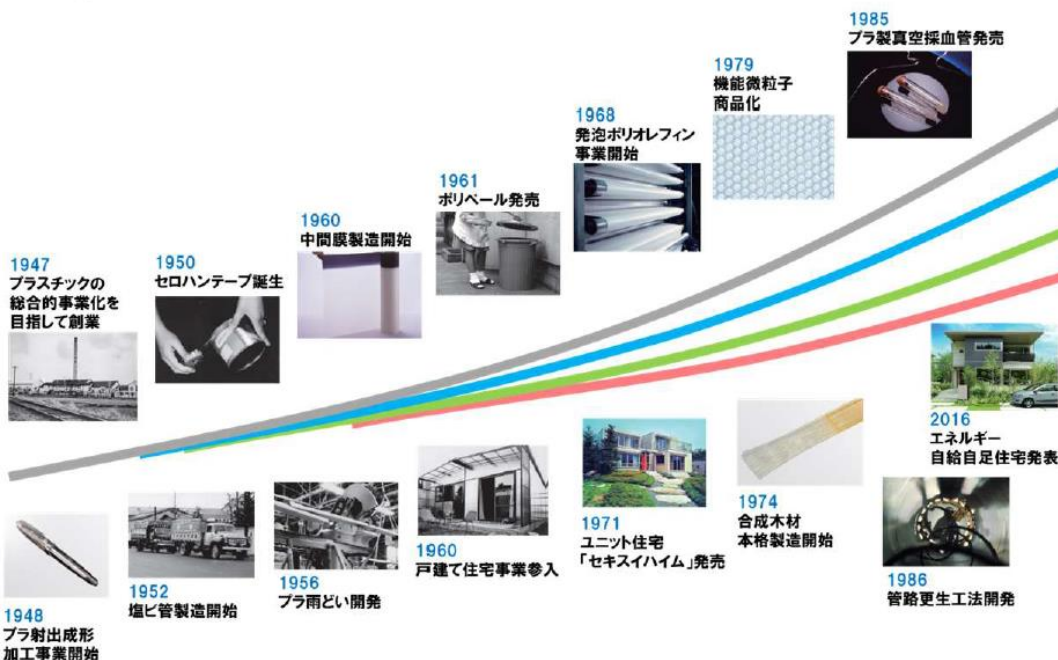
私たちは創業以来、3S精神に基づき、
様々な分野において課題解決に貢献し続けてきた



Service 企業活動を通じて社会的価値を創造する

Speed 積水を千仞の谿に決するスピードをもって市場を変革する

Superiority 際立つ技術と品質で社会からの信頼を獲得する



解決すべき社会課題やニーズの広がり

不都合な真実

気候変動

インフラ老朽化

自然災害激甚化

エネルギー問題

高齢化/職人不足

豊かな生活へのニーズ

快適さ、便利さ

人生100年・健康

「社会課題解決への貢献」は当社のDNA

長期ビジョン「Vision2030」

Vision 2030

積水化学グループ長期ビジョンの全体像

ESG経営を中心においた革新と創造で、社会課題解決への貢献を拡大し、
2030年に業容倍増（売上2兆円、営業利益率10%以上）を目指す。

理念体系における位置づけ

社是、グループビジョンを受け、
経営戦略の橋渡しとなる指針

理念体系



Innovation for the Earth

サステナブルな社会の実現に向けて、
LIFEの基盤を支え、“未来につづく安心”を創造します。

売上2兆円

営業利益率10%以上

ESG経営を中心においた革新と創造

レジデンシャル
(住まい)

アドバンスド
ライフライン
(社会インフラ)

イノベーター
モビリティ
(エレキ/移動体)

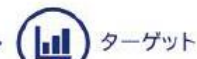
ライフ
サイエンス
(健康・医療)

ネクストフロンティア

加工・先取り変革

ひとりひとりの挑戦

企業統治



社会のサステナビリティ向上と共に、積水化学グループの持続的成長を追う

長期ビジョン「Vision2030」



持続的な貢献拡大に向けて

サステナブルな社会実現に向けた経営の考え方

社会課題解決への貢献を通じた利益ある成長を追求しつつ、「持続経営力」を意識した経営により、よりサステナブルに貢献拡大を図る。

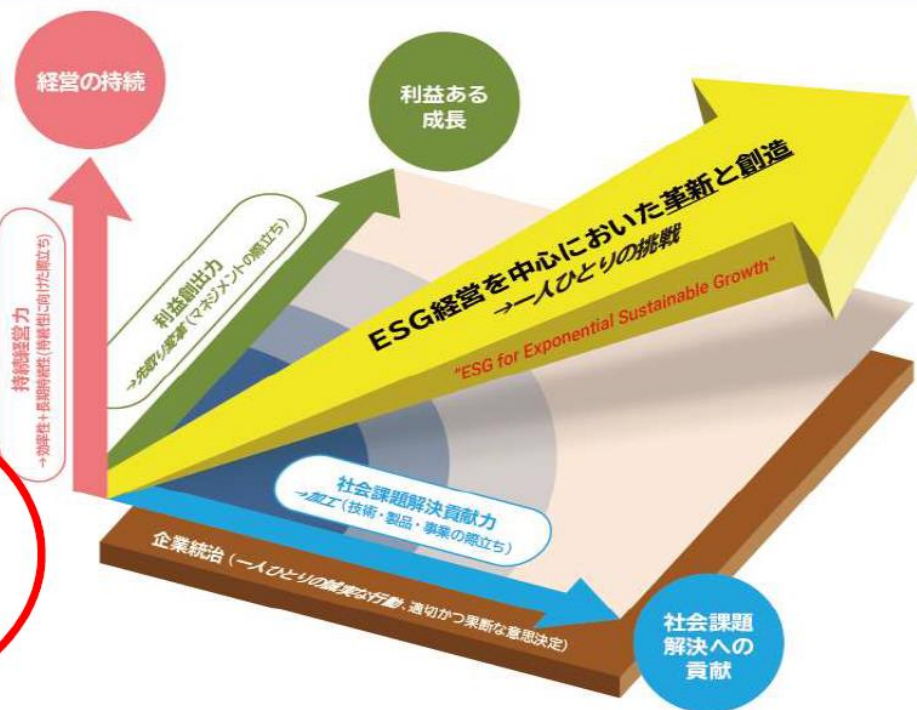
新たに注力

経営の持続

利益ある成長

社会の持続性向上

▲
積水化学グループの持続的成長



POINT

【持続経営力】とは

【効率性】

- 生産性や効率性を高め、経営資源を無駄なく活かすこと。

【長期持続性(経営基盤の盤石化)】

- 安全・コンプライアンス・品質の徹底により、中長期のリスクを回避すること。
- 持続的成長に向けて経営基盤へ投資し、各種の長期的な資本コストを低減すること。

積水化学グループの事業が成長するほど、社会がより持続可能になる未来

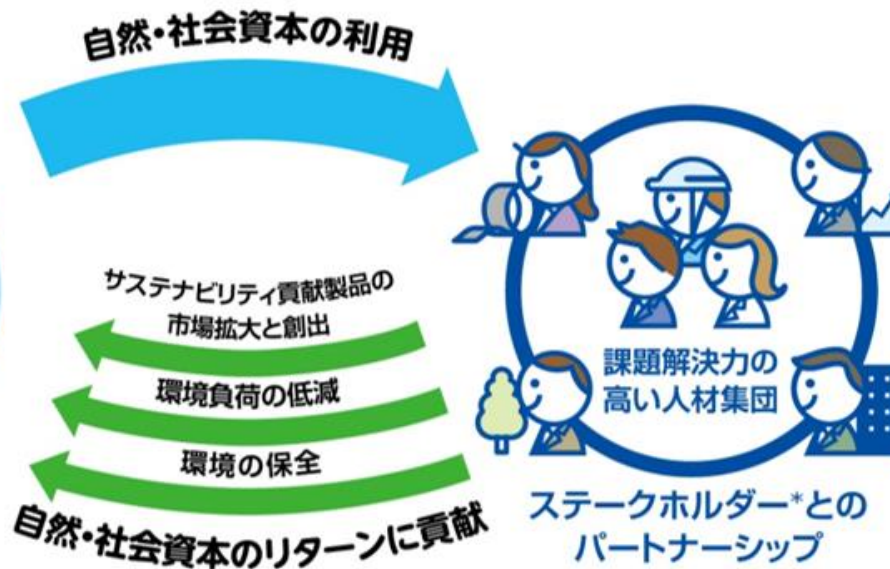
環境課題への取組みに関する方向性

企業活動を通じて2050年に目指す姿は、さまざまな自然環境・社会環境が解決された“生物多様性が保全された地球”

SEKISUI 環境サステナブルビジョン2050



生物多様性が
保全された地球



*ステークホルダー：「お客様」、「株主」、「従業員」、「取引先」、「地域社会・地球環境」

環境長期ビジョンの骨子：

従業員一人ひとりが自然・社会資本を利用して事業活動を行っていることを認識し、高い課題解決力を身につけて、ステークホルダーとのパートナーシップを強化していくことで、

「サステナビリティ貢献製品の市場拡大と創出」「環境負荷の低減」「環境の保全」の3つの貢献により、「自然・社会資本へのリターンに貢献」し、“生物多様性が保全された地球”を実現していきます。

気候変動

生態系劣化

水リスク

資源枯渇

2020年度からの取り組むべき重要な環境課題は、気候変動、水リスク、資源枯渇 と設定。
この3つに取り組むことで、直接的にも間接的にも生態系により影響を及ぼし、生物多様性が保全された地球につながると考える。

国際的な認識と社会要請の高さ

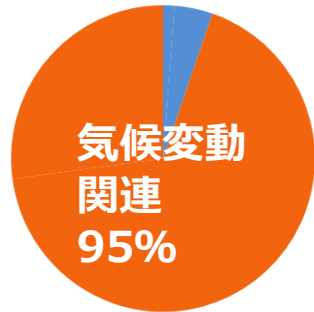
ダボス会議で発表された
長期リスクのうち
最重要な環境課題



規制リスクのインパクトが大

- ・ GHG排出量に対して課せられる炭素税増加
 - ・ 規制強化による市場からの締め出し
 - ・ 企業イメージのダウンによる取引の減少
- etc.

積水化学グループの
製品として
最も貢献できる環境課題※



ソーラーパネル搭載住宅
遮熱・遮音中間膜
KYDEX航空機用シート
LED用素材

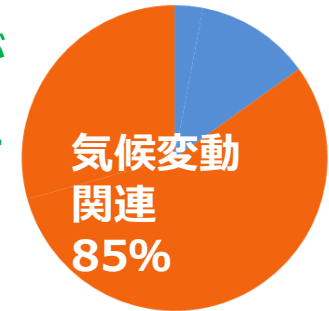
etc.

気候変動

物理リスクのインパクトが大

- ・ 災害増加によるサプライチェーン分断
 - ・ 生産工場の操業停止
- etc.

積水化学グループが
企業活動において
最も影響を及ぼして
いる環境側面※



※ 2019積水化学G環境貢献製品の環境側面に対する貢献度算出結果より

中長期的にビジネスに影響する、社会から強く要請されている、果たすべき企業責任の観点から、最重要な環境課題は気候変動と捉えている

2050年：企業活動によるGHG排出量ゼロ

2030年：企業活動によるGHG排出量26%削減（2013比）、
購入電力を100%再生エネルギーに転換

サプライチェーンを含むSCOPE3領域でGHG排出量27%削減（2016比）

積水化学グループが
社会にコミット！

国際的な認識と社会要請の高さ

ダボス会議で発表された
長期リスクのうち
インパクトが大きいリスク



物理リスクのインパクトが大

- ・生産工場に対して
グローバル共通ではなく
ローカル固有の水環境における課題あり
(取水、排水、気候など)

積水化学グループの 事業領域に関わりが大



水リスク

化学メーカーとしての 企業責任

- ・排水規制以上の配慮
(COD、生態系影響)

企業名と由来

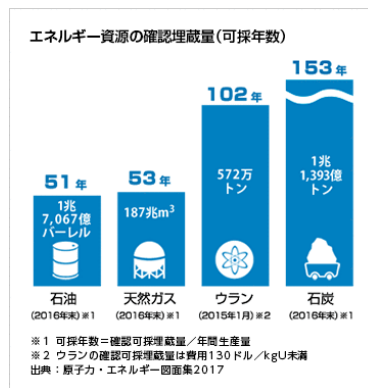
- ・積「水」

水ビジネスを業容としている、社会からの要請、各地域における工場操業継続の観点から、取り組むべき環境課題は水リスクと捉えている

2019年度まで：生産事業所において、一様に水使用量削減、排水の質（COD）向上をめざす。
2020年度から：加えて、生産事業所のローカルな水環境を把握、地域固有で特定した水リスクへの対処を事業所に応じて実施。
気候変動の適応策としても、水リスク低減製品のニーズに応えた製品の創出・普及を強化。

資源は有限のもの

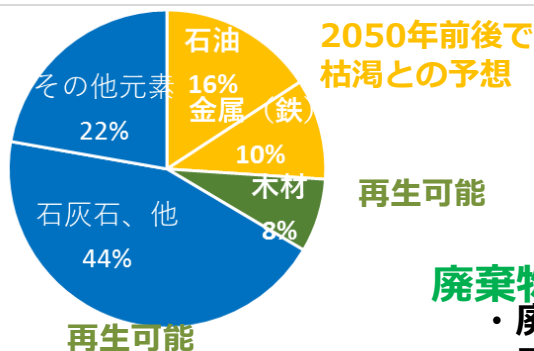
- 物質によって異なるが地球上の資源の枯渇時期の予測が立っている



海洋プラスチック問題に端を発した廃プラスチック問題への対処

- 1 wayプラスチック削減の風潮
- 廃プラスチックリサイクル推進の企業連携団体複数始動

積水化学グループは石油を原材料として多く使用



資源枯渇

プラスチック成型加工を生業とする企業の責任

- 炭素循環によるサーキュラーエコノミーの実現(循環型社会の実現に寄与)

廃棄物削減はコスト削減

- 廃棄物処理費用削減
- 原材料ロス削減

ケミカルリサイクル技術を確認し、事業化目前

ゴミから微生物によりエタノールを製造



単なる資源循環から、資源循環をビジネスの中に取り組んで発展させたサーキュラーエコノミーの実現に向けて取り組みを進めていくため、廃棄物の再資源化にさらなる重点化

2019年度まで：生産事業所における廃棄物を削減。

生産事業所において、廃棄物は、埋め立て以外のリサイクルを行う“ゼロエミッション”を推進

2020年度から：廃棄物削減に加え、再資源化を推進する取り組みを始動

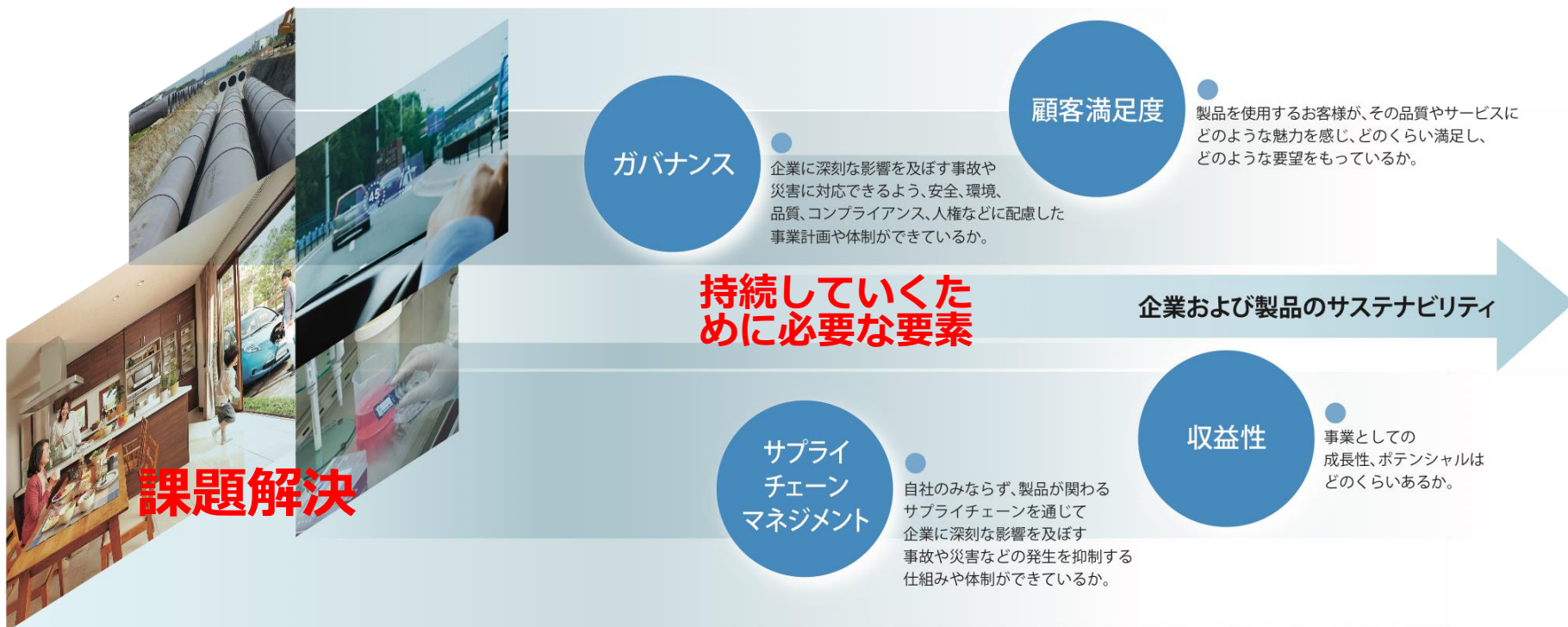


製品・事業を通じての課題解決





製品のライフサイクルすべてにおいて環境に配慮するだけでなく、
お客様が「使う」ことで課題解決に寄与できるような製品を拡大する

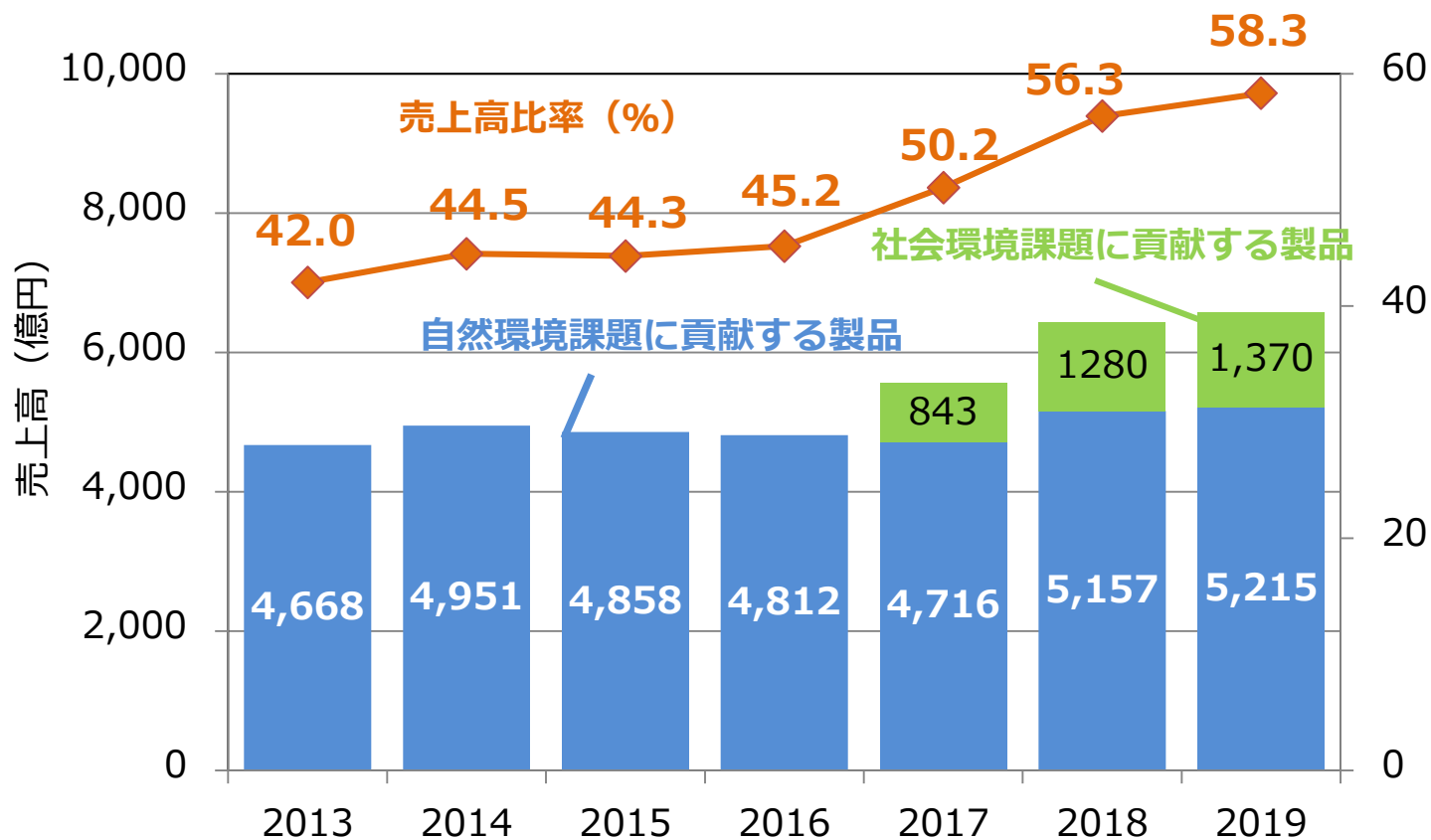


地球と社会のサステナビリティに貢献する企業活動

企業活動のサステナビリティを確保するための確認・評価活動

**製品による自然環境・社会環境の課題解決を持続していくためには
ビジネスとして成立しつづけることが重要
(=企業・製品のサステナビリティの向上)**

課題解決の貢献度が高い登録製品の売上実績の推移



課題解決の貢献度が高い製品は、全社売上高の半分以上

2020年4月現在、登録されている製品・サービスは163件



介護・自立支援設備「wells」

介護を支援するユーザー可変のサンタリー製品、設備群。介護対象者の自立支援、及びその介助者の介助負担の軽減を図り、「健康寿命の延長」に貢献。



雨水貯留システム「クロスウェーブ」

高い空隙率を有し、高耐荷重設計の雨水貯留システム。豪雨時に河川に流れ込む雨水の量を調節し、下水道からのオーバーフローを抑制。



エネルギー自給自足推進住宅「おひさまハイム」太陽光発電と蓄電池を搭載。省エネ・創エネ・蓄エネ性能を向上させてCO₂を削減し、自然災害等によってライフラインが途絶しても家族の暮らしを守る住宅。



コンクリート養生用シート「美(うつく)シート」

老朽化したコンクリート構造物の養生を行う高撥水性樹脂シート。型枠にシートを貼る簡易工法でコンクリートを長寿命化。



ヘッド・アップ・ディスプレイ用くさび形中間膜 HUD(ヘッドアップ・ディスプレイ)システムへの鮮明な画像投影を実現し、視認性を高めることによって、自動車運転時のドライバーの安全性向上に貢献。



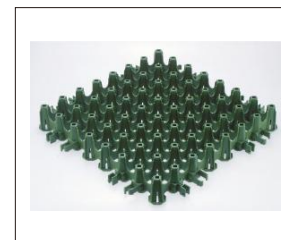
「ALLEN」グレード ABS樹脂リサイクルシステム

製品を購入いただいたお客様から端材を買い戻す(Buyback) 契約を結び、端材をリサイクルするシステム。



フラクタル構造の日よけ材「エアリーシェード」

多数の葉で構成される樹木の構造に倣った日よけ。温度上昇が少なく、木陰のような居心地を実現。



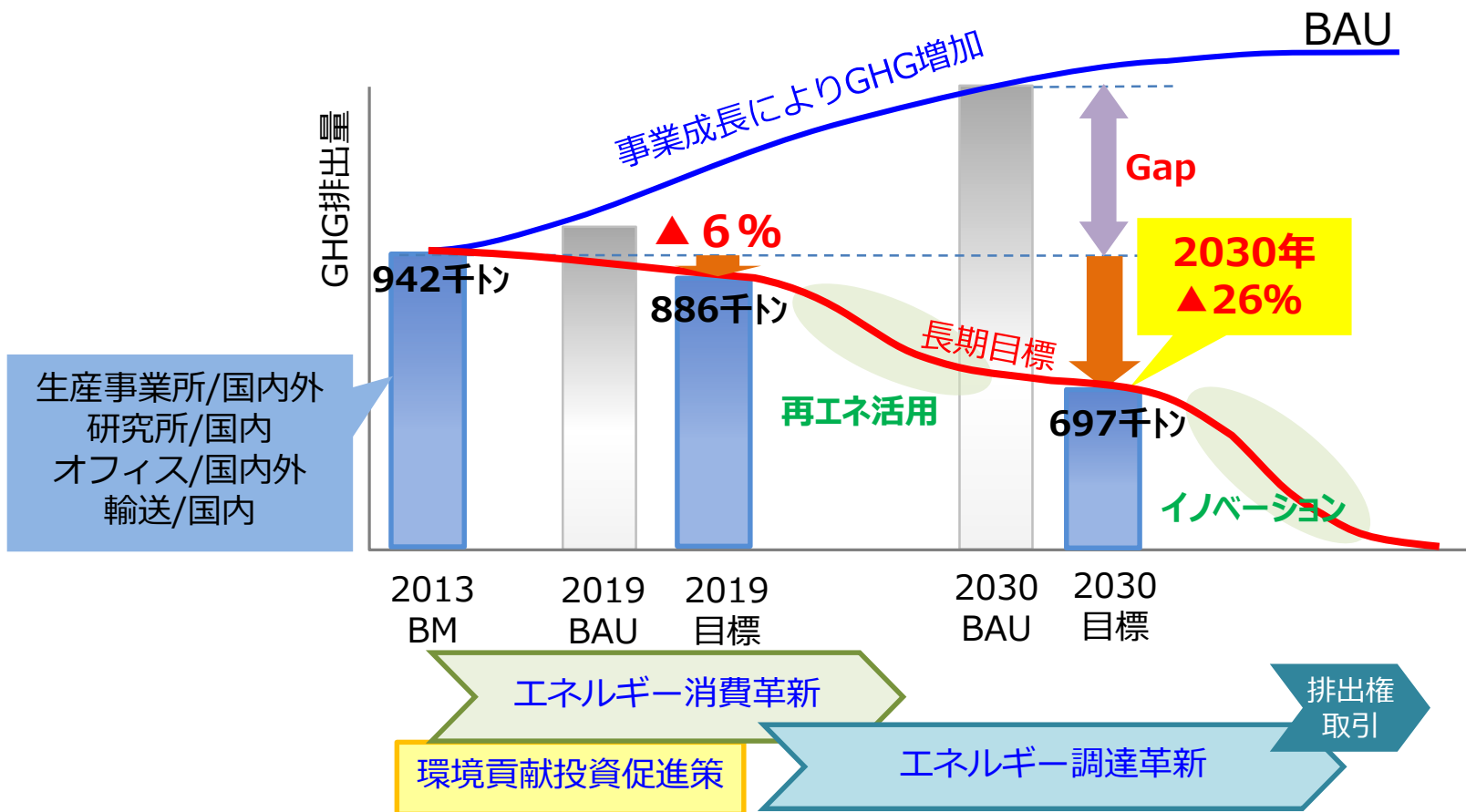
芝生保護材「芝想い」

芝生の上に敷くだけで、踏圧、擦り切れから芝生を保護。アスファルト舗装に比べて表面温度上昇が少なく、優れた透水性で、下水道管への雨水流入量も軽減。



環境負荷の低減





エネルギー消費革新：ものづくり、老朽更新等で消費量の削減によるGHG削減

エネルギー調達革新：再生可能エネルギーの積極活用

創エネによるGHG削減

技術的イノベーションによる燃料転換で削減

- ・ 油圧式射出成型機の電動機化・サーボモーター化推進
6事業所で69台更新 ▲3,956 t-CO₂
- ・ 積水化学グループ初の自家消費大規模ソーラーの導入
SEKISUI S-Lec America,LLC. ▲579 t-CO₂
- ・ 水銀灯の全廃を目指し照明のLED化促進
9事業所で13案件 ▲1,172 t-CO₂

山梨積水(株) ; 射出成型機更新



将来的にはCO₂削減に加えて、生産コスト改善にも寄与



環境の保全



- 目的：
- ・全世界の事業所で環境活動推進力を向上させる
 - ・積水化学グループ従業員の子供達の環境問題に関する認識を深め、環境への取組みに対して提言をもらう

時期：2007年～ 5年毎に開催

「世界こどもエコサミット2017」開催（創立70周年記念イベント）

2017年8月1日～6日（関東エリア）

13ヶ国から47名の子供達が参加

次世代の私たちに
環境を学ぶことが
できる教材の提供を！



グローバルでの次世代教育（SDG s 教育）を推進

「世界子どもエコサミット2017」で提言された次世代を対象とした環境教育教材を作成。東京書籍（株）と連携し、小学校高学年から中学校の子供たちを対象とした、SDGsについて学ぶことができるサイト「EduTown SDGs」を開設し、電子教材配信中。



QRコード

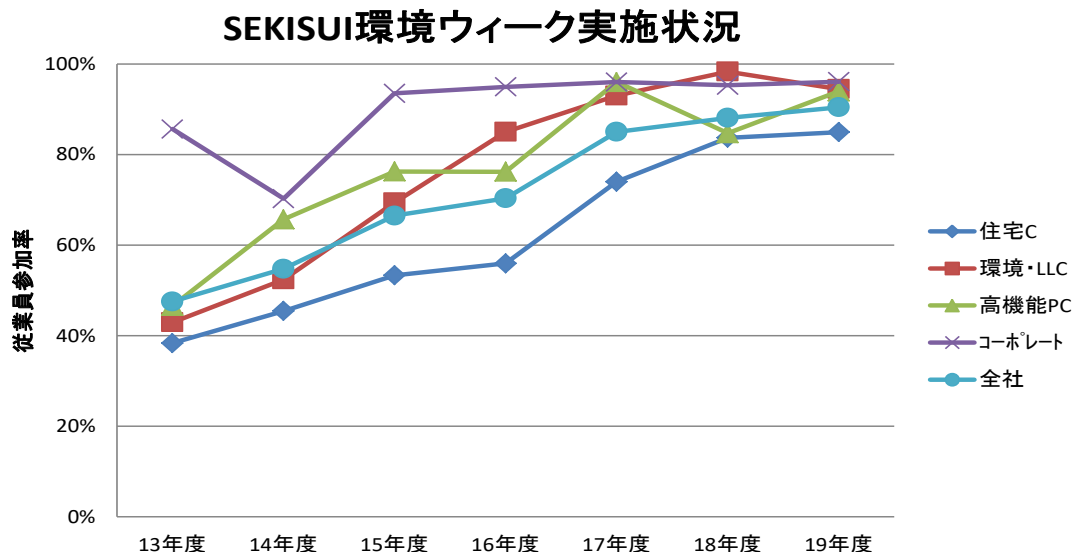


製品を通じた課題解決を考える最初の一步として、アクセスしてみてください。

名称 : SEKISUI環境ウィーク
目的 : 環境経営の浸透・推進のため、環境意識の高い人材を育成する
実施経緯 : 2012年「世界子どもエコサミット」で子供たちの提言を受け、社長が実施を約束
時期 : 連続する7日間（6月1日から9月30日迄の間で事業所毎に設定）
実施方法 : 全事業所、関係会社にて全従業員が参加可能な環境貢献活動を企画・開催
 例) 清掃活動、緑地整備、マイコップ利用等



東京本社 清掃活動



おのこの事業所の企画した活動には積極的に参加することで課題解決意識を啓発する取り組みに。

今後、さらに実践することで課題解決を考えることができるよう、取組みを刷新中。



自然資本会計



SEKISUI環境サステナブルインデックス

2013年策定、2014年公表
現在は主流となっている**自然資本ブ
ロトコル**の考えをいち早く採用

自然資本の利用

-100

+90.9

環境貢献製品の市場拡大と創出

+1.1

環境負荷の低減

+0.8

自然環境の保全

自然資本へのリターンに貢献



生物多様性が
保全された地球



環境活動推進力の
高い人材集団
(積水化学グループ)

2018年度 自然資本の利用100に対して

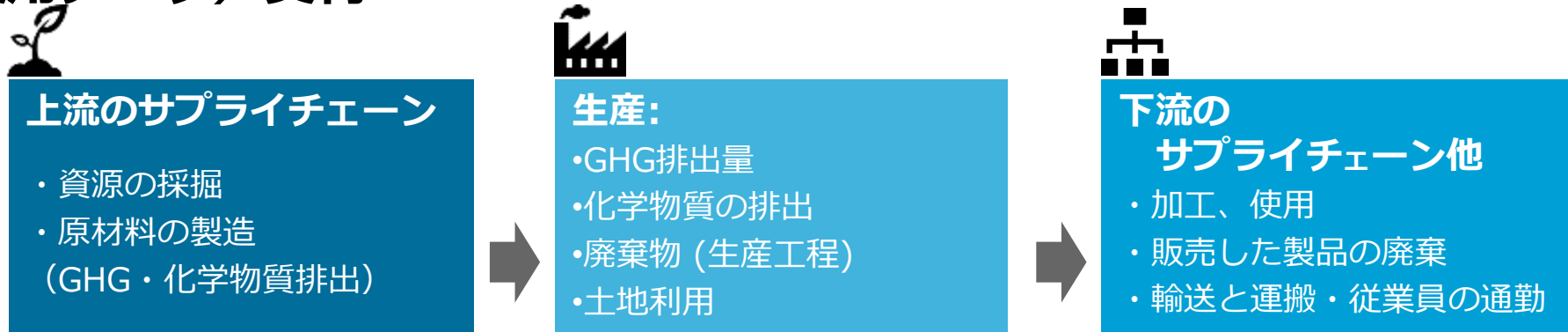
92.8%

のリターン

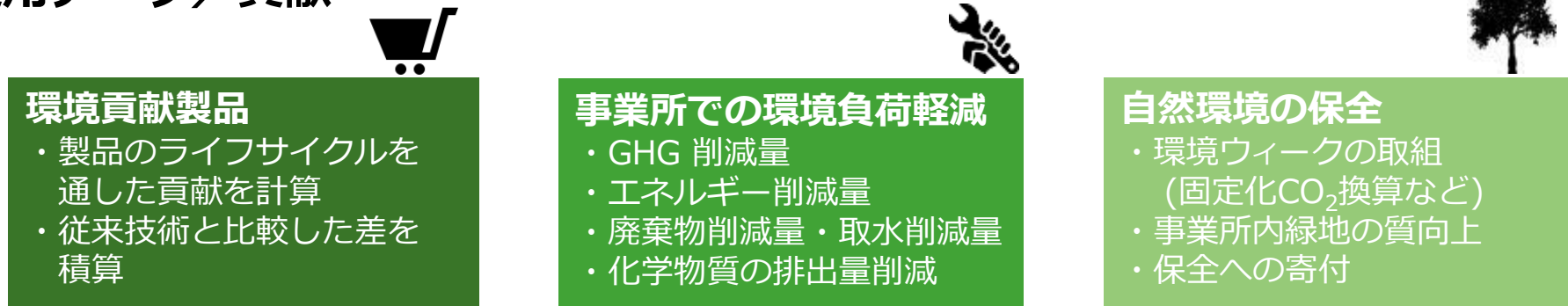
(前年度より**8.7**ポイント増加)

※記載の数値は、四捨五入した数値表記となるため、合計値と異なります。

使用データ／負荷



使用データ／貢献



計算の流れ

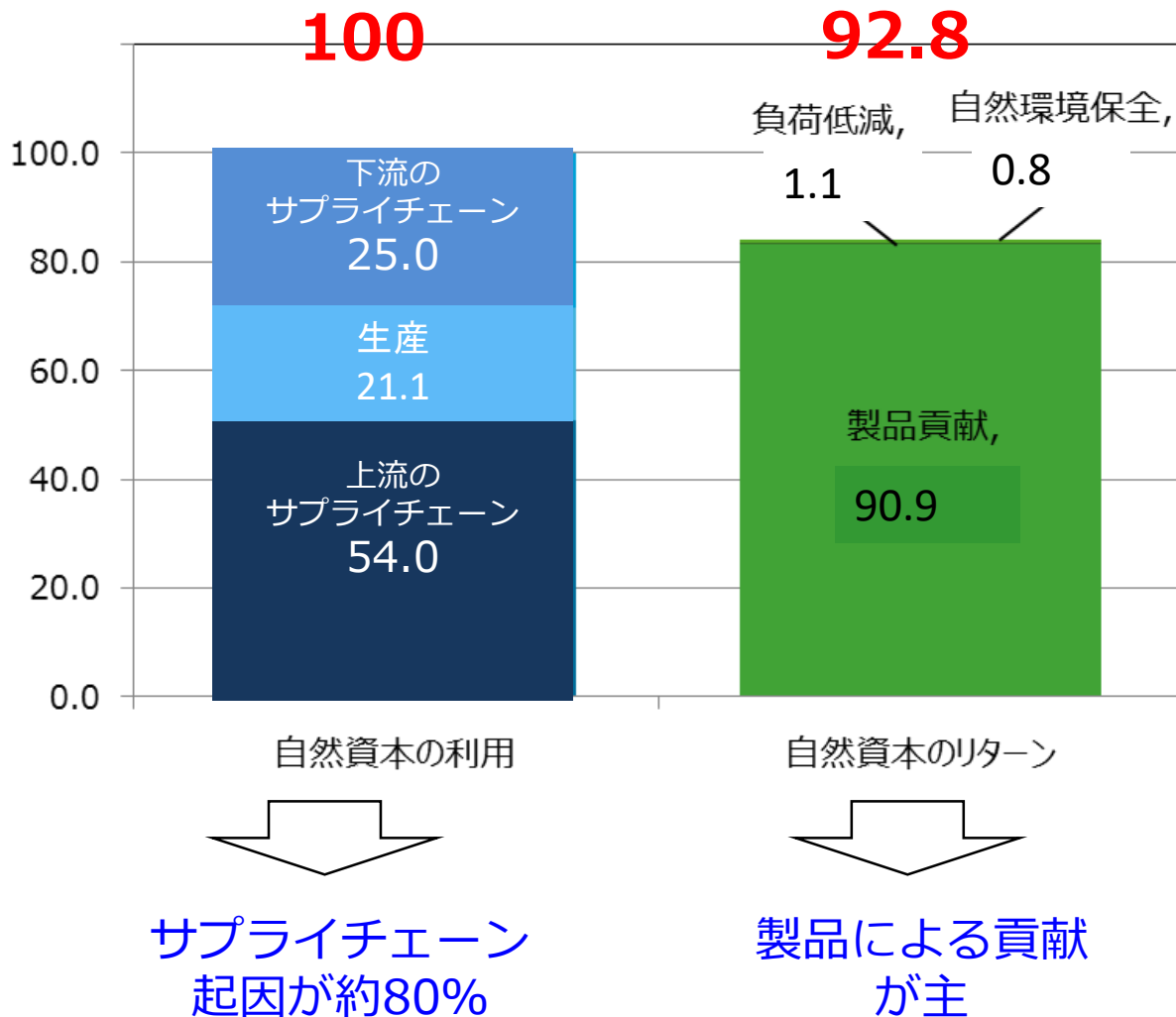
※LCA手法「LIME2」を活用

環境負荷・貢献の価値換算手法



自然資本会計から得られた知見を経営にフィードバック

【2018年度実績】 自然資本へのリターン率92.8%



- ①負荷を減らす活動
- ・サプライチェーンとの連携した取組み

⇒ 検討をコミット (SBT認証取得)

- ②貢献を増やす活動

- ・環境貢献製品の売上拡大とさらなる価値創出

⇒

- ・製品による貢献の再認識
- ・価値の見える化による創出促進

製品による課題解決への貢献を発信 → 普及促進 への寄与

「グローバル・バリューチェーン（GVC）を通じたG H G削減貢献の取組み」

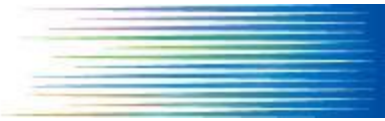


COP24（気候変動枠組条約第24回締約国会議）にて、経済産業省と一般社団法人日本経済団体連合会によって共同企画・開催された日本公式サイドイベントに参加





さいごに





SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

1 貧困をなくそう 	2 飢餓をゼロに 	3 すべての人に健康と福祉を 	4 質の高い教育をみんなに 	5 ジェンダー平等を実現しよう
6 安全な水とトイレを世界中に 	7 エネルギーをみんなにそしてクリーンに 	8 働きがいも経済成長も 	9 産業と技術革新の基盤をつくろう 	10 人や国の不平等をなくそう
11 住み続けられるまちづくりを 	12 つくる責任 つかう責任 	13 気候変動に具体的な対策を 	14 海の豊かさを守ろう 	15 陸の豊かさを守ろう
16 平和と公正をすべての人に 	17 パートナーシップで目標を達成しよう 	SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS 2030年に向けて 世界が合意した 「持続可能な開発目標」です		

企業として何ができるのか

企業経営にどう生かすのか

世界にまた新しい世界を。

A new frontier, a new lifestyle.

SEKISUI